JCFジュニア選手強化育成計画公開と公募は強化への明るい未来

九月の下旬に日本国内の自転車競技を統括する団体「財団法人・日本自転車競技連盟(以下JCF)」のサイトに一つのお知らせが掲載された。「選手強化委員会からのお知らせ・ジュニア強化指定選手の公募について」。そうなのだ、私が知っている限りでは初めて強化指定対象選手の公募をおこなうのだ。今まで、強化指定選手の選出方法についてはナゾが多く、基準というのがあることは予想出来てはいるが、それがどのレースなのか、どのようなテストなのか?などが公開されたことは一度もなかった。しかし、公募となると話は一気に変わる。その応募資格を提示するために公開せざるえなくなるためだ。さらにJCF選手強化委員会による、2010年JCFジュニア(トラック・ロード)強化育成事業計画も開示されている。これは歓迎すべき大きな変革の第一歩だと思う。付け加えると、この公募によってレディー・ゴー・ジャパン福本千佳が強化指定選手に決定、同チームからは下久保初菜選手とともに二名の女子選手がJCFジュニア強化指定となった。

今まで日本に欠けていることは子供たちを育てていく仕組みだと思う。さらにジュニアの「女子」となると、この後の競技に対する心構えが男子より劣るであろう、という偏見もあって進んでいなかったように思う。それは、ジュニアもエリートも女子選手は、実力や素質があってもトップとして活躍していても、何がキッカケなのか分からない間に競技をやめて、さらにはレースに関わるすべてからも消えてしまうからだ。某連盟役員は「いま、現役で走る女子選手も含めて本当は自転車が好きで走っていない気がする」とコメントされていたが、これは図星であり、さらに自転車が好きになるような環境作りを怠ってきたことも起因する。好きというのは「楽しい」以外に「突き詰めることの達成感」も必須で、その仕組みをソフトとハードの両面で整えることが必要だ。

そこで、ジュニアの強化に先導的な立場のJCFにはトップ選手の強化を動向も含めてPRしつつ公開を活発におこなって欲しい。そして、子供対象のスクーリングを定期的に「連続性」を持っておこなう必要がある。ようは学校の傍らに塾や習い事に通う感覚で、基礎から応用までクラス分けしておこなう方式である。現在、開催されている多くのスクールは一回限りの繰り返し開催が多く、認知度は高くなってきているが、本来の強化育成とは違うような気がする。本来、スクールはイベントではなく、定期的に特定少数を相手に反復継続しなければ意味がなされない。

さらに、国内の自転車レースに興味を持ってもらうようなレースの実現、演出や企画も必須なのだと思う。すべて海外のレース=凄いではないと思う、ツール・ド・フランスは凄いと思うが、そんな大会は日本が逆立ちしても、すぐに追いつかない。私は個人的にマレーシアで開催される男子ステージロードレース「ツール・ド・ランカウィ(Tour de Langkawi)」を参考にしてはどうか?と考える。マレーシアの特徴を生かしたレースは、回を重ねて、現在はUCIアジアレースの最上位レースに成長した。日本にも「ツアー・オブ・ジャパン」があるので、このレースを徹底して「ジャパニーズな大会」を売りにPR露出し、国内での女子UCI公認レース開催実現に繋がればよいと思う。

目標となるような良い自転車レースをまず、日本国内で実現すること。これでスクーリング(育成と強化)とレース(強化発揮の場)というソフトとハードがいち早く揃うよう、RGJチームでは自転車普及活動を実践している。

- photo by Shuhei Takenouchi -

上写真・舞洲クリテリウムでのRGJ福本千佳選手→右写真・レース準備をするRGJ下久保初菜選手は、トラック強化指定も受ける

＊審判もこなすRGJチーム選手：RGJチームの堀 友紀代はJCF公認審判員の二級を所持する選手だ。そのため、自身が出場しないレースでは審判員を勤めることも時々ある。彼女は将来、選手引退後にはバイク審判を希望しているようで、既に大型バイクに乗れる限定解除の免許も取得済み。先日、参戦したフランス遠征ではレースもさることながら運営、特にバイク審判のテクニックに感銘を受けたようだ。海外レース遠征で得られるものは、レースで勝つテクニック以外にもある。RGJチームでは審判資格をまだ持っていない所属選手には、来年「JCF審判員3級試験」を受験させる予定だ。

実業団・飯田ロードでRGJ初のラジオ出演!

先日、長野県飯田市にて開催された「第五回全日本実業団ロードレースin飯田」にレディー・ゴー・ジャパンチームから吉井玲香、武田和佳、福本千佳の3選手が出場をした。そして、飯田FMがレースの実況を交えておこなっていた「実業団サイクルロードレース公開生放送」に、RGJチーム出場選手が声の出演を果たした。

肝心のレースは福本選手、一周目はトップ四名の集団に喰らいつく良いペースで走っていたが、二周目の中盤で惜しくも集団から離れてしまう。しかし、必死で位置を落とさないように走り続けて、トップと四分差の六位でゴールを果たす。一方、吉井選手。登りはピカイチだけど、下りで・・・という状況がかなり改善された様子。飯田のテクニカルな下り箇所でも大きな遅れがなく、さらにジワジワと順位を上げて八位でゴール。武田選手は序盤から出遅れてしまいギリギリ十八位で完走。疲れが溜まっているのか、腰痛が悩みのようなので改善策を練ることとした。

この飯田ロードは、五年前の第一回大会の当初から、地元の方々の盛り上がりも凄い「地元密着型」を結実させた好レース。これは地元チーム・ダイハツボンシャンス飯田の活躍、そして立ち上げ時から関わる地元スタッフのレース運営が非常に熱心で、今も相変わらず素晴らしかったことに尽きると思う。レース会場内には、地元・飯田市の名産品が並び、飲食ブースも充実しており、表彰式の舞台も大きく設置しフランスなどの欧州の自転車レースで普通に見られる「お祭り(カーニバル)なレース会場」も日本特有の色合いも出しながら実現している。

このように本来の自転車ロードレースの運営のあり方、そして今後、各地で参考にしてほしい地域密着型レース実現の「モデルケース」的なレースであった。なお来年もほぼ、同時期にレース開催予定である。

-photo by Shuhei Takenouchi-

上写真・飯田FMに生放送に出演するRGJチーム(左より福本、武田、吉井)の面々。吉井選手、緊張の面持ち!左写真・飯田ロードFR(女子)レースのスタートで飛び出すRGJ出場選手たち

引き続き各地で活躍するRGJにご声援のほどお願いします!